

1 総評

令和3年度の学校教育自己診断の各設問の肯定的な回答の平均ポイントは、近年5年間でほぼ横ばいの状況であり、昨年度から今年度の増減もわずかである。

しかし、今年度の学校教育自己診断で特段に肯定的な回答のポイントが上昇したのは、設問「学校の進路についての情報をよく知らせてくれる」である。

生徒対象のアンケートでは昨年度から9.3ポイント、また保護者対象のアンケートでも同設問の肯定的な回答は12.4ポイント以上上昇している。

令和2年度は年度当初よりコロナ禍により、新学期が6月からスタートし、様々な教育活動に制限がかかったことで、特に卒業を控えた3年生への進路指導も困難を極めていた。

令和3年度も、本校でも度重なるコロナ禍にかかる臨時休業を強いられたものの、これまで本校では実施していなかった、集合型の保護者向けの進路説明会を1学期中に実施することで、保護者が進学先、就職先の選択に直接参加できる場を設ける新しい試みが行われた。こういった、生徒・保護者へのきめ細かい活動が評価されたものと判断する。

一方、設問「子どもにとって、興味・関心に応じて選べる選択科目が多い」については、保護者対象のアンケートでは5.9ポイント下降している。生徒対象のアンケートでは同設問については加工せず、1.6ポイント上昇していることから、教育課程や学校設定科目などについて、保護者への周知が十分でなく、伝え方に工夫が必要であると判断する。生徒の興味・関心を高める、魅力のある授業を行うことが最も優先されるべきであるが、今後、減少する一方の子どもたちや保護者に、本校の特徴や多様な生徒にきめ細かく対応する進路指導などを伝える必要性を再考させる結果となった。

また、クラブ活動や地域連携の活性化については、肯定的な回答のポイントが低く、学校の魅力を高めるためにも早急に取り組む必要性を感じる。

2 アンケート結果の分析

(1) 生徒へのアンケート

【肯定的な評価が8割以上を占める項目】

「服装や頭髮の指導がきちんとできている」

「自分は、校則やマナーを守っている」

【肯定的意見が半数に満たなかった項目】

「生徒会活動は活発である」

「自分は、授業や部活動で地域の人や近隣の学校と係わる機会が多い」

(2) 保護者へのアンケート

【肯定的な評価が7割を超える項目】

「子どもはクラスは楽しいと感じているようだ」

「服装や頭髮の指導がきちんとされている」

「子どもは校則やマナーを守っている」

「先生は、子どもの悩みや相談に親身になって応じてくれる」

「教室・運動場などは、授業等の活動がしやすいように整備されている」

「子どもは、学校からのプリントや連絡を保護者にきちんと伝えている」

【肯定的な評価が半数に満たなかった項目】

「部活動は活発であると思う」

「子どもは学校で、授業や部活動で地域の人と係わる機会があるようだ」

「PTA活動は活発であると思う」